

2024 年度 学校推薦型選抜 [データサイエンス学部] 小論文 (図表理解)
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

野村総合研究所が行っているデジタルエコノミーに関する調査報告書から出題した。この報告書は、世の中で話題となっているテーマや、社会的に意義があると考えられるテーマについて、野村総合研究所が調査・提言を行うレポートである。今回出題に使用したレポートは、2023年に最も話題となったテーマの1つである「生成AI」「ChatGPT」について、調査を行った結果をまとめたものである。データサイエンス学部の受験生として、今話題となっている情報系技術・人工知能の問題などについて興味や関心を持っているか、提示された図表から具体的・理論的な考察や意見を述べることができるのかを見る問題となっている。

<設問 1>

【解答のポイント】

図表1では、特定の時期(2023年2月頃)から急激にOpenAIへの日本からのアクセス数が増えたことが判り、ChatGPTへの注目が急激に高まったことが読み取れる。

図表2より各国の中でも日本の利用者・利用率が高いことが判る。また、日本の国別トラフィックシェアは3位となっているが、人口を考慮するとアメリカやインドより人口あたりの利用者数は多いことが推察できる。

図表3から認知率に対して利用率がかなり低いことが判る。また、性別による認知・利用率の差があり、男子の方が女子よりも認知・利用率ともに高い。また、年代別でも性別による差があり、男子は10代・20代の認知率が高い。利用率も若者ほど高い傾向にある。女子の認知率については、年齢による差があまりない。利用率については、20代のみ10%を超えており、それ以外は全て10%以下となっているなど、かなり異なる傾向となっていることが読み取れる。

図表4では、学生・教職員など、学校関係者の利用率が高いことが判る。授業での有効活用や、学生が利用することで授業課題に与える影響など、学校関係者に与えた影響が大きかったことが推察される。次いで会社役員・会社員などのビジネス関係者の利用率が高く、ビジネス分野においても、様々な利用方法の検討などが行われていたことが読み取れる。

【解答の傾向】

図表1～4について、概ねデータは適切に読み取れていたと考える。ただし、一部にはデータの読み取りを殆ど行わず、受験者自身の考察が解答の大部分を占めている答案もあった。図表から読み取れるデータに関しての考察を行うことは問題ないが、問題文では問われていない自身の意見が記述の大部分を占めている解答では、評価を与えることはできない。

図表2は、国別のトラフィックシェアを示している。国別の順位については、多くの受験者が言及していたが、国の人口差を考慮した解答は殆どなかった。トラフィックを生み出すのはその国の人間であり、人口に差があれば利用率に差があることに思い至らなかった、もしくは国別人口の知識を持っていなかったと考えられる。

図表3については、認知率・利用率、男性・女性、年代と多くの側面から比較・検討ができるグラフとなっているにも関わらず、1つの側面だけに着目した解答が多かった。字数の制限があるため、全ての項目を比較・検討して記述することは困難であるが、データの読み取りを問う問題で、データの大部分を捨ててしまうような解答では、高い評価を与えることはできない。

<設問2>

【解答のポイント】

図表5からは、AIのイメージについて「業務効率・生産性を高める」「暮らしを豊かにする」などプラスのイメージがあるが、「人間の仕事を奪う」「なんとなく怖い」などマイナスのイメージもあることが読み取れる。

図表6からは、AIのビジネス導入の実態について、トライアルを含めて約10%程度、使用を検討しているのも約10%程度であり、まだ導入・検討とも数が少ないことが読み取れる。業種別で見ると、トライアルを含めて使用率が高いのは「IT・通信」「教育・学習支援」であり、使用を検討している率も高い。それ以外の業種については、概ね全体平均よりも低く、殆ど導入・検討が進んでいないことが判る。

図表7より生成AIの利用用途に関して、現在利用・今後の活用可能性が高いのはテキスト・プログラム・メール等のテキスト生成系AIであり、画像・音楽・動画生成系AIについては現在利用・今後の活用可能性ともに低く、ビジネスでの利用が進んでいないことが判る。

否定的な意見を述べる場合、生成系AIの問題を指摘し、導入を慎重に進める必要性を主張する形となる。問題点としては、生成AIが作成したテキスト・画像・動画などの創作物に関する著作権問題、生成AIが作成した情報の虚偽性の問題、教育現場における学生・生徒によるAIで生成した成果物を自分で作成したと偽って提出する可能性、などである。これらの問題点を指摘し、生成AIのビジネス導入を慎重に進める主張を述べる形となる。

肯定的な意見を述べる場合、ビジネス利用における利点を積極的に主張する必要がある。AIのビジネス利用については海外でも進められているため、慎重になりすぎると日本の産業競争力を損なう可能性などを述べる。積極的に利用を進める前提として、生成AIの利用に関する法制度やガイドラインの作成を検討する必要性などを記述する。原稿作成・プログラム作成の補助など、ビジネスの効率化に役に立つことを主張し、生成AIのビジネス利用を積極的に進めるべきとの意見を述べる形となる。

【解答の傾向】

問題文には「図表5～7をもとに」との記載があるにも関わらず、図表に言及せずに自身の意見のみを記述している答案が見受けられた。本問題は「図表理解」の問題であり、図表からの考察を行った上で、自身の見解・自身の知識を述べるのであれば問題ないが、図表と関係ない事柄

が大部分を占める解答では、評価を与えることはできない。意見が「否定的」でも「肯定的」でも問題はないが、自分自身の立場を主張することなく、様々な意見だけを羅列する形の答案も見受けられた。どのような立場・主義から意見が述べられているのかがはっきりしないと評価を与えることは難しい。また、図表には生成系 A I に対する否定的・肯定的なデータが両方含まれているにも関わらず、自身の意見と異なるデータには一切言及せず、自分の主張にとって都合の良いデータのみ言及するのも好ましいとは言えない。様々な主張があるなかで、自身はこのような意見を持っていると述べるべきである。